

香川県高松市教育委員会

【総人口】 4 2 0 , 5 4 5 人 (令和5年5月)      【自治体 関連URL】 <https://www.city.Takamatsu.Kagawa.jp>

【主担当部局】高松市教育委員会  
高松市総合教育センター  
【主な関係部局】高松市教育委員会学校教育課  
(公立小学校担当)  
高松市健康福祉局こども保育教育課  
(保育所・認定こども園・幼稚園担当)

|            | 幼稚園 |       |         | 保育所     |         | 幼保連携型<br>地域裁量型 |         | 小学校   |           |    |
|------------|-----|-------|---------|---------|---------|----------------|---------|-------|-----------|----|
|            | 国立  | 公立    | 私立      | 公立      | 私立      | 公立             | 私立      | 国立    | 公立        | 私立 |
| 施設数        | 1   | 1 9   | 2 3     | 2 6     | 1 1 3   | 1 0            | 2 1     | 1     | 4 9       | 0  |
| 園児・<br>児童数 | 5 9 | 4 7 9 | 3 1 1 3 | 2 3 4 5 | 4 4 5 2 | 1 2 7 9        | 2 7 4 4 | 6 1 7 | 2 1 6 6 6 | 0  |

|                         |                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                    |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業実施地域・<br>協力園校         | 【実施地域】 高松市                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                    |
|                         | 【協力園校】 幼：公立・・檀紙幼稚園、香南こども園、はらこども園、田井保育所、大町幼稚園<br>私立・・まゆみ幼稚園、高松西保育園、八栗保育所<br>小：公立・・檀紙小学校、香南小学校、牟礼南小学校、牟礼小学校                                                                                                                                               |                                                                                                                                                    |
| 架け橋期の<br>カリキュラム開発<br>会議 | 【会議委員人数】 3 3 名                                                                                                                                                                                                                                          | 【開催数】 全体会議：2 回    校区别会議：1 6 回（各校区4回）                                                                                                               |
|                         | 【委員属性】<br>公立幼稚園 2 名、公立保育所1名、公立認定こども園2名、私立幼稚園1名、私立保育園(所) 2 名、公立小学校 4 名、<br>コーディネーター2名、教員養成大学（教授・准教授）3名、市教委総合教育センター（小学校教育担当・幼児教育担当）8名、<br>市教委学校教育課（小学校教育担当・幼児教育担当）3名、<br>市こども保育教育課（公立幼稚園・公私立こども園・公私立保育所担当）・3名、<br>県教育委員会義務教育課（幼児教育担当）1名、県総務学事課（私立幼稚園担当）1名 |                                                                                                                                                    |
| 架け橋期の<br>コーディネー<br>ター等  | 【配置人数】<br>2 名                                                                                                                                                                                                                                           | 架け橋期の<br>カリキュラム                                                                                                                                    |
|                         | 【経歴】<br>①元公立幼稚園・こども園園長、<br>市教委指導主事<br>②元公立小学校長                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                    |
|                         |                                                                                                                                                                                                                                                         | 【開発主体】<br>檀紙小学校区（1 公立幼稚園、1 私立幼稚園、1 私立保育園、1 小学校）<br>香南小学校区（1 公立こども園、1 公立小学校）<br>牟礼南小学校区（1公立こども園、1 公立幼稚園、1 公立小学校）<br>牟礼小学校区（1 公立保育所、1 私立保育所、1 公立小学校） |

## カリキュラム開発会議

### 【架け橋期のカリキュラムに関する議論・方針】



#### 【高松市がめざす連携・接続のテーマ】

### 子どもの学びをつなぐ 持続可能な保こ幼小連携・接続

- ①気軽に対話できる教職員関係の構築
- ②子どもの学びの共有と分析
- ③連携校区の実態に即した架け橋期のカリキュラムの充実・改善



- ◆相互の子どもの育ちを理解し、子どもの学びをつなぎ伸長するため、気軽に対話できる教職員関係を構築し、子どもの学びを共有しながら「架け橋期のカリキュラム」を作成、実施、改善していく持続可能な連携・接続の方法等を開発するとともに、市内全域に広める。
- ◆カリキュラムをつくって終わりではなく、校区の子どもの実態に即した、学びをつなぐカリキュラムとなるために、子どもの姿を中心に教職員が対話し、共有した子どもの学びや支援、環境などを校区のカリキュラムとして反映させていく。
- ◆取組の方向性を管理職と教職員とが共有し、学校・園・所全体での取組にする。
- ◆「地域の子どもを共に育てる」という意識を醸成する。
- ◆地域の環境等を取組に活かす。
- ◆子どもに関わる関係者が推進方法を考え、市内全域へ発信する。

- ・気軽に対話できる **関係**づくり
- ・子どもの学びを知る **場**づくり
- ・持続可能にする **仕組み**づくり



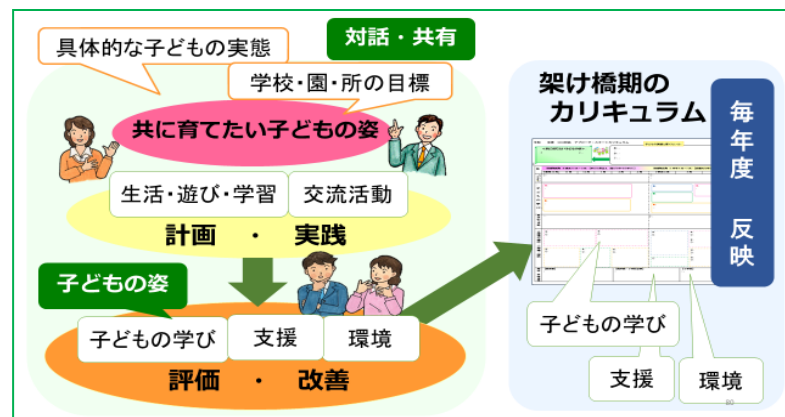
### 【成果と課題】

#### 【成果】

- \* 校区别会議を重ねることで気軽に対話できる関係が築けた。
- \* 異なる組織の人たちに、自分たちの教育や保育について伝える必要があることで、自らの教育や保育を見直し、充実させようと意識するようになってきた。
- \* 異なる視点が入ってきたことで、多面的に子どもを理解し、実践してきたことのよさを感じたり、これまでの支援を見直したりすることにつながった。
- \* 「共に育てたい子どもの姿」をめざした連携を進めていこうとする意識が高まった。
- \* 5歳児担任や1年担任以外の教職員の参加が増え、また、管理職間の連携が行われるようになり、持続可能な連携・接続に向けた体制づくりが進んできた。

#### 【課題】

- \* 多数の就学前施設がある校区の連携・接続方法について調査研究する。
- \* 幼児期の学びを生かした小学校の学習に関する実践・評価・改善を行う。
- \* 成果を市内全校区へ広げる取組を進めていく。
- \* 関係機関間の連携・協働を更に進めていく。



## 架け橋期のカリキュラム

### 【開発プロセス】

#### 校区の実態に即した 学びをつなぐカリキュラムへ

- 「共に育てたい子どもの姿」の共有
- 子どもの学び、連続性、支援、環境等の共有と分析(相互参観・交流活動・協議)
- カリキュラムの改善

#### 学びをつなぐ活用シート

- 子どもの学び＊トークシート
- 交流シート 交流Memo
- 架け橋期のカリキュラム様式 など

#### 校区别会議

(校区の学校・園・所で実施)

- ・1年生の授業参観・協議
- ・合同研修会 講話・協議
- ・交流活動・協議
- ・5歳児の保育参観・協議

#### 事務局・コーディネーター

- 各校区の実態把握
- 教職員間の関係づくり
- 校区全体の共有サポート

開発校区ごとに、相互参観、交流活動を行い、**子どもの姿を基に協議**する。

〔参加者〕

- ・開発校区教職員
- ・事務局
- ・コーディネーター
- ・有識者
- ・他の開発校区教職員

校区别会議の前後に事務局会議において、**各校区の連携・接続の状況、地域・学校・園・所の特徴、課題を踏まえ**ながら、どのようにコーディネートをしていくか協議し、運営していく。

### 【相互理解のポイント・課題・工夫】



#### ◆子どもの学びの過程と支援・環境の分析

- \* 気軽に対話できる状況
- \* 子どもの姿を基に協議
- \* 子どもの学びの可視化
- \* 「資質・能力の3つの柱」と関連付け
- \* 子どもの学びの共有

#### 「子どもの学びトークシート」の活用

- ・シートに協議の視点が示されているため意見が伝えやすく気軽に対話できる。
- ・シートに書き込むことで意見が可視化され共有できる。
- ・記録として次の取組にも生かせる。

#### 子どもの姿・環境等の映像の活用

- ・架け橋期の子ども様子をタブレット等で撮影し、映像を共に視聴することで、学びの見取りや共有ができる。
- ・支援や環境に関する改善にもつながる。

#### ◆協議した内容を架け橋期のカリキュラムに反映させる工夫

- \* 「資質・能力の3つの柱」と関連させながら分析、共有した内容の可視化

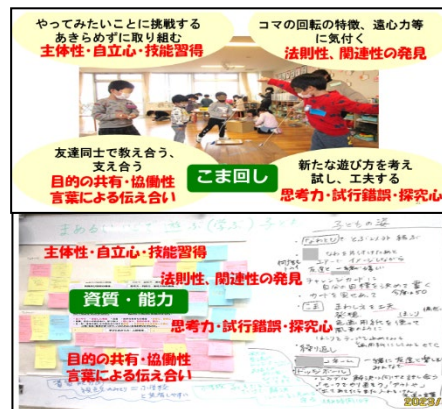
#### 「分析まとめシート」の活用

- ・子どもの姿と学び
- ・学びを支える支援や環境
- ・小学校以降の学びにどのように生かすか

協議では、「**子どもの学びトークシート**」を活用し、子どもの姿から「**資質・能力の3つの柱**」と関連させ、分析、共有する。



分析、共有した内容を板書したり、「**分析まとめシート**」に整理したりする。整理した内容を「架け橋期のカリキュラム」に反映させる。





◆校区の実態に即しながら、**毎年度改善**していく

例) 令和5年度の改善のポイント (D校区)

### ①共に育てたい子どもの姿の具体化

\* 「自分も友達も大切にする」に「考えて行動する」を追加

## ②子どもの思いを聞き子どもと共につくっていく視点

\* どんな1年生になりたいか、どんなことを感じたのか等

### ③地域の自然や文化等を共通の教材として位置付ける

＊地域の情報や活動場所の共有

◆カリキュラムを整えていくのではなく、自分たちの取組が分かるような言葉等で表現できているかを考えながら、**各校区で積み重ねてきた強みを丁寧に整理**していく。

◆各開発校区での実践や検証を基に『カリキュラム参考様式』の意図や項目、記入例等を提案していく。（令和6年度）

①タイトルを「架け橋期のカリキュラム」とし「スタートカリキュラム」との違いを明確にする。

## R4年度参考様式を 基に改善していく

②5歳児4月～1年生3月までの2年間にする。  
月で区切らず校区の実情に合わせて記入する。

[illegible]

令和 年度 ○○校区 アプローチ・スタートカリキュラム

子どもの実態と育てたい力

幼稚園・小学校教育の目的・目標  
『学びの基礎力の育成』  
（資質・能力の３つの柱）は  
連続性・一貫性をもって実施

|               | 継続期前期（５歳児１０月～３月）【学びの芽生え（遊びの中での学び）】 |     |     |    |    | 継続期後期（半年４月～７月）【自覚的な学び（教科等の学習を遂げた学び）】 |      |    |    |    |
|---------------|------------------------------------|-----|-----|----|----|--------------------------------------|------|----|----|----|
|               | ５歳児１０月                             | １１月 | １２月 | １月 | ２月 | ３月                                   | １年４月 | ５月 | ６月 | ７月 |
| 子ども一人ひとりの発達状況 |                                    |     |     |    |    |                                      |      |    |    |    |
| 子どもの学びの様子     |                                    |     |     |    |    |                                      |      |    |    |    |
| 支援者の関与の状況     |                                    |     |     |    |    |                                      |      |    |    |    |
| 大まかな環境構成・指導方針 |                                    |     |     |    |    |                                      |      |    |    |    |
| 地域・学校連携       |                                    |     |     |    |    |                                      |      |    |    |    |

③子どもの学びと環境構成・支援の関連が分かるようにする。

④幼児期の学びと１年生の学びの連続性が具体的に分かるような表記等の工夫をする。

⑤実践後の評価・改善点を記入できる欄を設ける。

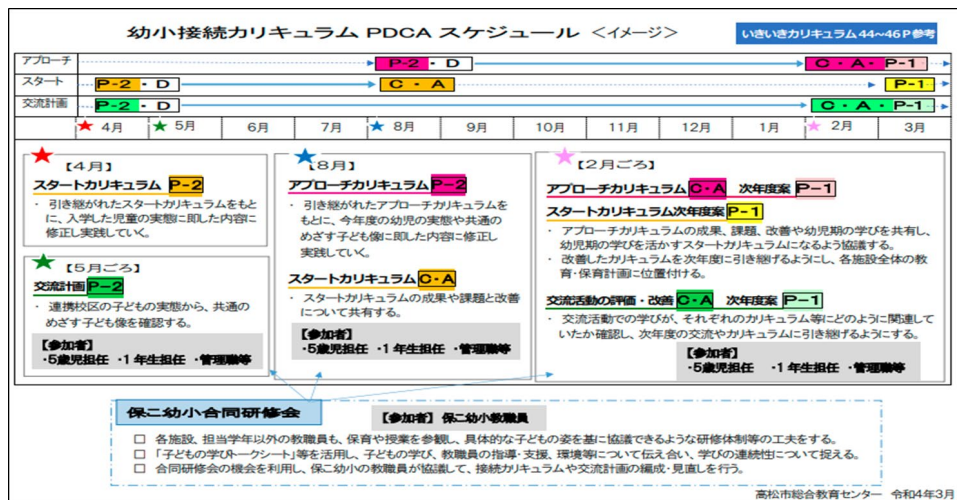
⑥参観・交流・協議で利用した計画案やトークシート・交流メモ等を添付する。

⑦子どもの学びを支える保護者や地域との連携のポイントを記入する。

## 架け橋期のカリキュラム

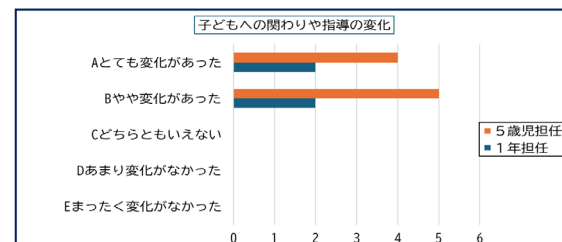
### 【架け橋期のカリキュラムの実践】

架け橋期のカリキュラムの改善が、学校・園・所全体のカリキュラム・マネジメントとして位置付けられるように、また、それが持続可能なものとなるような仕組みづくりとして、「幼小接続カリキュラムPDCAスケジュール」に添って、合同研修会を年間3回実施している。

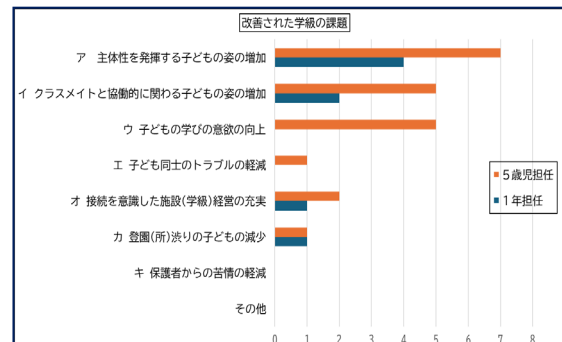


### 開発校区アンケート調査より（令和5年12月実施）

調査対象 ■ 5歳児担任 9名 ■ 1年担任 4名



「幼小小の接続の取組を通して、子どもへの関わりや指導方法に変化があったか」についての問いでは、全員が変化があったと答えており、具体的には、子どもに考えさせるなど、主体性を意識した支援へと変化してきたことが分かった。



「改善された学級の課題」についての問いでは、1年担任の全員と5歳児担任の約8割が「主体性を発揮する子どもの姿の増加」を挙げている。教職員の主体性を意識した関わりが、子どもの変化として表れている。

## 次年度への展望

- ◆これまでの取組を継続、発展させながら、「連携校区の実態に即した架け橋期のカリキュラムの充実・改善」に関する取組を重点的に行う。
  - \* 開発校区の主体的な連携、運営
  - \* 管理職間の連携の充実
  - \* 1年生スタートカリキュラムの実践・改善
  - \* 学校・園・所のカリキュラムとしての位置付け
  - \* 各施設の保育・授業改善
- ◆市内全ての校区での取組の推進を図るため、カリキュラム開発会議の体制や機能の充実を図る。
  - \* 開発校区の充実、管理職団体の協力
  - \* 中学校区での連携の推進（牟礼地域）
- ◆架け橋プログラムの取組を発信する。
  - \* 参考資料作成、配布、活用
  - \* 就学前施設と小学校の合同研修会等各種研修会での周知
  - \* 保護者・地域への発信、連携
- ◆持続可能な連携方法を工夫する。
  - \* 資料の共有・データ化
  - \* I C T活用による効果的な交流（子ども同士の交流・教職員連携等）